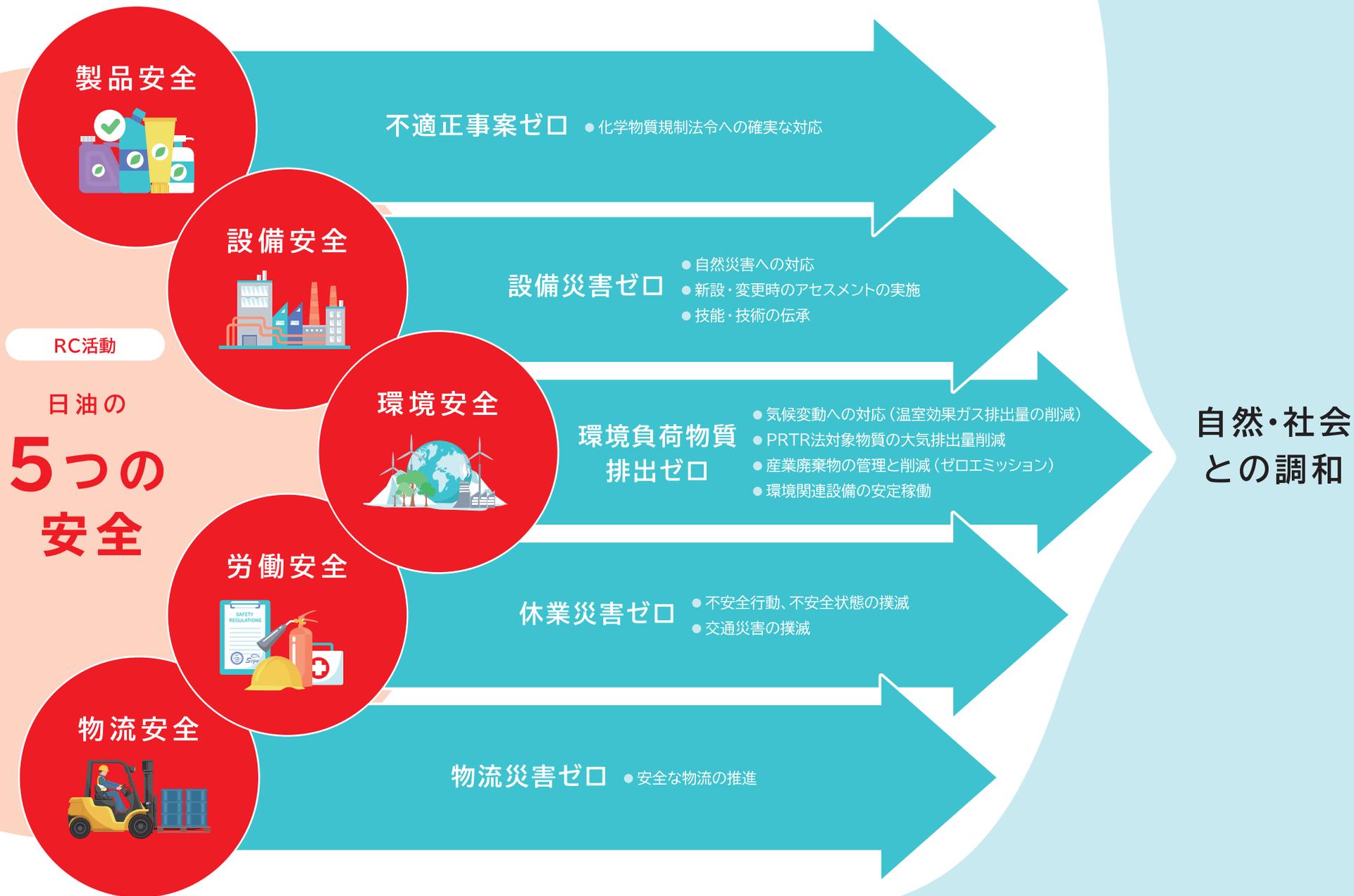


日油グループは、幅広い事業を営む化学メーカーとして自然環境や社会環境との調和を目指してきました。これからも、事業を拡大しながら企業の社会的責任を果たし、安全・安心な事業活動を継続していきます。



RC活動



調和



取締役 常務執行役員 技術本部長

山内 一美

今後も、日油が自然や社会と共生していくために、 5つの安全活動で、「ゼロ」の達成を目指します。

RC活動と社会との対話を通して、調和を実現

化学品を取り扱う当社グループでは、化学品の開発から、製造・物流・使用・最終消費を経て廃棄に至るすべての過程において、環境・健康・安全を確保し、その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行うレスポンシブル・ケア (RC) 活動を展開しています。また、RC活動のテーマを「環境安全」、「設備安全」、「製品安全」、「労働安全」、「物流安全」からなる「5つの安全」と定め、1995年より施策を開始し、PDCAサイクルを回すことで、着実なレベルアップに努めています。さらに、現在は自然環境や社会環境との調和を図るため、5つの安全に対する最終目標として各項目の「ゼロ」達成を掲げています。

※ 「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (通称: 化管法)」。本報告書では、特定化学物質の環境への排出削減等の活動について説明する場合はPRTR法と表記しました。

環境負荷物質の排出を抑制

当社の「環境安全」では、環境負荷物質排出ゼロを目指します。気候変動への対応については、2050年のカーボンニュートラル達成を目指し、2030年目標として「対2013年40%削減」を設定。低負荷エネルギー源への転換、非電化設備の電化、生産工程の見直しなど施策の積み上げと実践により、温室効果ガス排出量の低減に取り組んでいます。また、従業員の省エネルギー意識を高めるため、エネルギー使用量の「見える化」や、インターナルカーボンプライシング (ICP) の導入検討を進めることで、エネルギーの効率利用を推進します。

PRTR法※対象物質の大気排出量削減については、収益拡大との両立を図りつつ、排出量が年

特集 | 社会課題解決を支える日油の3つの価値観

170トン以下となるよう管理に努め、さらに製造工程の見直しや回収技術を高めるなど、抜本的な取り組みにつなげます。

これらの取り組みに加え、プラスチックを含めた産業廃棄物の削減やリサイクル、環境関連設備の安定稼働を通じて、自然環境の改善を図ります。

すべてのステークホルダーに安全と安心の環境を

当社は化学物質を扱う企業として、従業員や地域社会、お客さまなどさまざまなステークホルダーの安全と安心のため、社会環境の改善を図ります。

「設備安全」では、従業員や地域住民の健康・安全維持のため、「設備災害ゼロ」を目指します。目標達成に向けては、設備の新設や変更時におけるアセスメント(客

観的な評価や分析)の実施や、社内教育における安全に関する技



能・技術の伝承など、事故を未然に防ぐ施策を実行しています。さらに、災害などの緊急事態に備えた事業継続計画(BCP)として、設備の防災・減災対応や定期的な防災訓練を行い、自然災害時においても被害の抑制と事業継続を両立できるよう努めています。

「製品安全」では、法規制やガイドラインを遵守し、顧客に正しい情報を伝えることで、「不適正事案ゼロ」を目指します。さらに、2025年度までに、全社で化学物質データベースを構築する予定です。これまで各部署で収集していた情報を、全社システムとして一元管理することにより、情報の精度を高めて法改正にも迅速に対応できるようになります。お客さまに安心して製品をお使いいただくためにも、引き続き化学物質規制法令に対する確実な対応を講じていきます。

「労働安全」では、働く人々の安全と健康を守るため、「休業災害ゼロ」を目指します。感性の向上と安全行動の徹底や教育・訓練の実施により、「不安全行動、不安全状態の撲滅」、「交通災害の撲滅」を図ります。

「物流安全」では、物流における事故や災害の防止に努め、「物流災害ゼロ」を目指します。特に、事故による化学物質の漏洩・流出を防ぐとともに、有事

に適切に対応するため、安全データシート(SDS)やイエローカードを作成し、関係者へ欠かさず情報を提供しています。また、物流会社に対するコミュニケーションや指導を徹底することで、さらなる安全管理に努めます。

当社グループは、CSRの中核にRC活動を据え、今後もさまざまなステークホルダーに安全・安心を届けていきます。

化学物質データベースの構築イメージ

